

こんにちは

# 庄内町議会

です



No.57  
6月議会号  
30.7.5



笑顔で元気な  
あいさつ運動

庄内総合高校  
関連記事 P14

- ◆ 旧立谷沢駐在所、定住に活用・・・〈補正予算〉 2
- ◆ 清川地区の活性化に向けて・・・〈議案〉 3
- ◆ 11人が町政を問う・・・〈一般質問〉 4
- ◆ これまでの提言を検証・・・〈常任委員会報告〉 10
- ◆ 読者目線でアドバイス・・・〈議会広報モニター〉 12
- ◆ 4年間を振り返る・・・〈さよなら議会〉 13

# 立谷沢川流域活性化センター

※タチラボの定住促進住宅として改修

6月  
定例会



仲間募集中 (関連記事 P12)

会期

6月5日から  
8日まで

専決  
5件

各会計補正予算  
4件

契約案件  
4件

条例改正  
5件

事件案件  
1件

人事案件  
2件

計21件  
すべて原案  
どおり可決

平成30年度一般会計補正予算は、1億2千937万円を減額するものです。主な減額要因は、社会資本整備総合交付金(道路整備事業、除雪事業等)の要望額に対する決定額が大幅に減額になったことです。また増額した予算に係る主な事業は、立谷沢川流域活性化センター定住促進住居整備事業、特別職報酬等審議会委員報酬等です。

## 利活用とは

庄内町立谷沢川流域活性化センターの定住促進住居として利用し、若者の移住・定住はもちろんのこと、地域おこし協力隊を含めた移住者向けの住居となります。

町に居住する意思のあるもので、定住促進住居の利用申し込みに基づき入居者を決定します。利用者の募集にあたっては、町の定住支援サイトやチラシ、県の首都圏各種相談窓口等により、広く県内外に周知します。

## 工事スケジュール

7月1日(予定)  
県から無償譲渡

7月中旬工事発注

8月中旬完了予定

## 事業費

定住促進住居整備工事  
150万円

## 財源内訳

過疎対策事業債  
110万円

一般財源  
40万円

## 山形県若者世帯向け空き家改修事業費補助金 (H30から10年間補助)

総事業費 1,500,000円 × 補助率 1.125% = 16,875円  
起債額 1,100,000円 × 補助率 1.500% = 16,500円  
≒ 33,000円/年

管理費用に対する山形県補助金

## ※タチラボとは

立谷沢川流域活性化センターの愛称です。意味は、いろんな人が集まって物事を生み出していく場所(工房、考房)です。

タチ「タチ」ヤザワガ  
ワリュウイキ

(立谷沢川流域)  
ラボ「ラボ」ラトリ

Laboratory  
(研究所、製造所)

コ「ラボ」レート  
collaborate(協力する)

エ「ラボ」レート  
elaborate(丹念な)

# 特別職報酬等審議会追加4回計5回 答申を受けた町長判断を待つ

# 議案

# 清川・立谷沢さらさら発展

## 観光・地域活性化の拠点整備

# 清川歴史公園整備 立谷沢公民館耐震改修を決めました

### 工事内容

#### ●川口番所

歴史の里清川を案内する拠点施設。関所関係資料の展示や飲食の提供をします。

#### ●船見番所

最上川を往来する荷物の監視を目的に設置していたので、土盛りして展望所とします。

#### ●関所構え

高麗門こうらいもんと冠木門かぶきもんを復元し、周囲は板塀等を設置します。

#### ●地元産材の活用

歴史公園の整備には、地元清川報恩会より杉の原木の寄附を受け、使用木材の約70%に地元産材を活用します。

### 新設

#### 「交流ギャラリー」

「人が集い、交流できる場所」として、立谷沢公民館1階に交流ギャラリーを新設します。

物置を有効活用し、普段は、湯茶コーナーを設置し、休憩に立ち寄った人たちの憩いの場として、立谷沢観光情報なども提供します。

また、立谷沢ファンを増やすため、地元住民との交流や四季それぞれの体験事業を展開する場として、地元協力者の企画・連携のもと、継続して「立谷沢ファンの輪」を広げていく取り組みを予定しています。

## 清川歴史公園 (第一期)工事

完成 平成31年3月27日

契約金額

# 9871万円

契約の相手方

株式会社 狩川佐藤組

## 立谷沢公民館 耐震改修工事

完成 平成31年1月31日

契約金額

# 1億3500万円

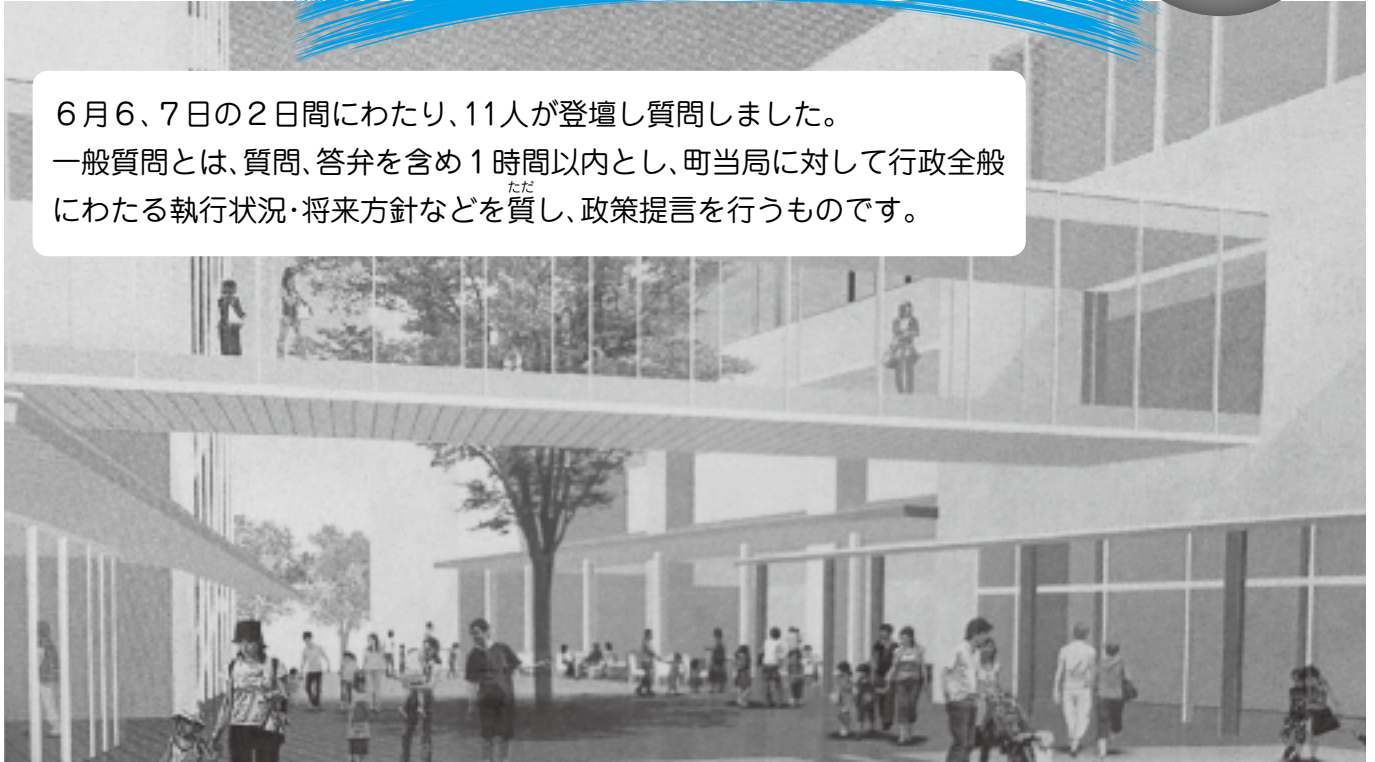
契約の相手方

菅陸建設 株式会社 庄内支店



万が一があっても大丈夫

6月6、7日の2日間にわたり、11人が登壇し質問しました。  
一般質問とは、質問、答弁を含め1時間以内とし、町当局に対して行政全般にわたる執行状況・将来方針などを質し、政策提言を行うものです。



完成が待たれる集いの場

新庁舎中庭(イメージ)

**問** 本町の将来推計人口は、2030年1万7千49人、2045年1万2千669人である。総合計画の最終年度2030年の目標人口は1万9千人である。改めて危機感を抱き、何としても歯止めをかけなければならぬ。庄内総合高校三年生による卒業研究でも人口減少について調査研究を行っている。急激な人口減少と厳しい状況が見込まれる。歳出の削減および歳入の財源確保から中期的財見通しを示すべきであるがどうか。



村上 順一 議員

## 行財政

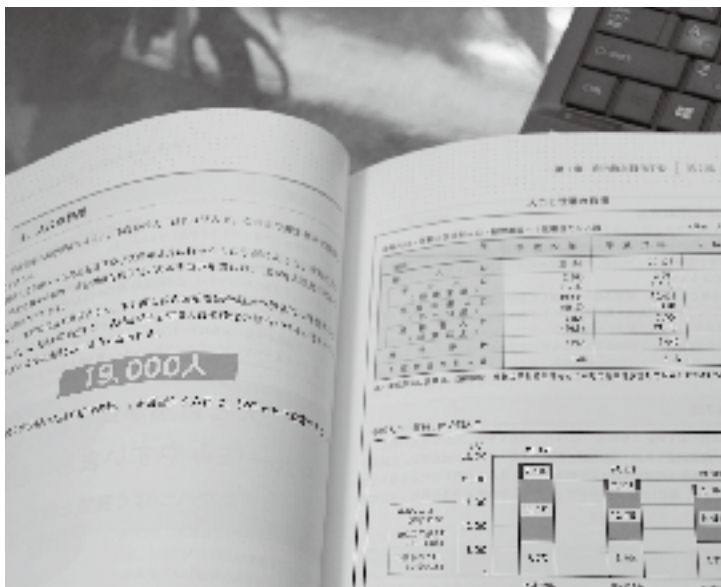
### 町長

### 中期的財政の見通しを示せ

### 行財政改革推進計画の見直しで検討する

**町長** 合併から10年が過ぎ合併算定

替え等がなくなるなか、行財政改革を進めてきた。現在は、第2次庄内町行財政改革推進計画をスタートして、受益者負担の見直しなど他町村との比較を含め、検討していくことになる。なお、これからは費用対効果、あるいは借金の状況も見据えながら、民間活用も視野に入れた手法の改善を検討するという時代に入っていると考えている。



貯金と借金のバランスが大事

# 清河八郎 記念館

基金を活用せよ

町長

誘致協議会とともに考える



國分 浩実 議員

問

昨年、ふるさと応援寄附金基金の制度ができ、清河八郎大河ドラマ誘致の

気運醸成のために250万円が積み立てられた。しかし活動内容に清河八郎記念館に関するものがない。清川歴史公園事業もスタートするなかで、同記念館の展示物の充実は重要であり修復費用にふるさと応援寄附金基金を活用できないか。大河ドラマ誘致の気運が高まれば交流人口拡大につながる。地域の声に耳を傾け、基金創設すべきと思うがどうか。

町長

いよいよ着手する清川歴史の里とともに、清河八郎記念館の情報発信などさまざまな取り組みが必要ではないかと考えている。また、新たに立ち上がった誘致協議会とともに考えたい。現時点では、基金活用による清河八郎記念館

の施設および資料などの修復・修繕を実施する設定は含まれないが町単独の補助金による修復・支援を行うこととしていく。今後は、地元や記念館との連携・意思疎通を大切にしていきたいと考えている。



清河八郎肖像画  
私もいよいよ全国デビューか

# 地域おこし 協力隊員

サッカーの普及に力を入れよ

教育長

庄総高・小学校に力を入れたい



小林 清悟 議員

問

八幡スポーツ公園は、近隣に

はない特筆すべき施設で、日本サッカー協会公認の人工芝サッカー場がある。この施設はACミランのサッカースクール指導者による子ども対象のサッカークリニックが、東北で初めて開催された施設でもある。町では、今年度から、この施設を使い、国が支援する地域おこし協力隊の制度を活用してサッカーの普及に力を入れ、町の活性化を図ろうとしているが、どんな内容か。

教育長

今回の地域おこし協力隊員は全国高校総体（インターハイ）の準優勝チームのヘッドコーチを務めた大変優秀な技能指導技術を持っている。町の活性化では、庄内総合高校サッカー部の支援を通し、より魅力

ある学校をつくり、定員割れしない学校を目指したいと考えている。小学校の体育の授業で、先生のサポートとして入り、子どもたちのスポーツに対する興味と、体力向上につながることを期待している。



ステップアップにキックオフ

## 大雨被害

対応が遅い 再検討せよ

町長 課題として考える



齋藤 秀紀 議員

問

冬の豪雪もあり、3月1日の大雨による融雪は、用水路の水位上昇をもたらし、被害を発生させた。町に対する被害の通報は、何件あったのか。

町長

3月1日の大雨による融雪時には、除雪業者や周辺住民による排雪に加え、急激な融雪による影響により、堰で2件、農業用水路で1件の水位上昇の通報が寄せられている。

問

通報に対する対応の状況とその課題をどう捉えているのか。

るのか。また、長沼堰の件は、排水ポンプ車

出動も考えられた。使えなかった理由は何か。用排水路は、最上川土地改良区、除雪は県も入る。それぞれと協議、連携を図り、対策すべきでないか。

町長

今後の対策としては、水位上昇の原因を防ぐため、

除雪業者に対する作業

指導とともに、町民への除雪方法の周知と協力を呼びかけていきたい。また、除雪業者はもとより、県や改良区との連携を図り除雪業務にあたりたい。なお排水ポンプ車の出動は現場の状況を確認し応援をもらう体制になっている。



災害に人災を加えるな

## 児童発達支援センター

早急に設置せよ

町長 具体的な検討を行う



上野 幸美 議員

問

児童福祉法に基づきサービスは、早期療育の利用が増加している。しかし圏域内の実施事業所は少なく、相談支援を行う事業所も不足している。第一期庄内町障がい児福祉計画の目標は平成32年度末まで児童発達支援センター設置となっており急務である。具体的にどう進めるのか。

町長

計画に位置づける支援センターの設置については、設置場所や人員、施設機能等を含め、これから具体的に進めていく。

設置主体や運営主体も含め、町独自で行うのか、民間で取り組むのかなど、様々な状況を想定し結論を出していかなければならない。

問

センター設置に向け協議会を立ち上げ、関係者の意見を反映させ、有資格



育ちの環境が良くなります

者・専門員の採用を先行するなど、準備段階から一緒に取り組む体制はどうか。

町長

専門的な職員配置は、具体的な施設整備に関連した検討を加えていく必要がある。

## 一人下校児

### 子どもの把握と安全対策図れ

教育長

PTAと連携して対応したい



澁谷 勇悦 議員

問

先の新潟市で起こった小学生女児の痛ましい事故など、子どもの安全がおよびやかされている。

町では学校をはじめ民間有志の見守り隊など、多くの機関団体が活動している。新潟でもこれらが行われていたが未然防止には至らなかった。

下校時、一人となる子どもの安全確保を最優先に考えるならば、まずはこの対象者を把握すべきでないか。そのうえで関係者等が、よりきめ細やかな対策を講じるべきでないか。

教育長

子どもたちの下校時間が学年によって異なり、一人になることの把握が学校だけでは非常に困難であるため、PTAや保護者、そして地域の方の協力を得て、実態を把握することが可能ではないかと考えてい

る。子どもたちを取り巻く状況は年々変わってきている。学校、家庭、行政が互いに協力し、連携し合うことが肝要である。自助、共助、公助の連携により子どもたちの安全確保に努めていきたい。



話し合いより行動

## 区長の職務

### 軽減図れ

町長

より望ましい方向で対応したい



鎌田 準一 議員

問

町の基本単位である集落の運営は、町行政の円滑な運営に直結している。

町内会長の現状は集落の運営のほか、行政区長や福祉員も兼務しており、職務は多岐にわたる。行政区長の職務軽減のため、親書以外の広報紙等の全戸配布物は、シルバー人材センターの配布システムを活用し、事業委託することで、高齢者の人材活用と健康増進にもつながる。行政区長設置規則等を精査し、新たな事業として検討すべきではないか。

町長

月に2回ほど文書配布を行政区長にお願いしている。これまで色々な配布物の内容を精査し、減らす工夫を行うなど、負担軽減を図っている。また、今年度はすべて郵送に切り替える考えを自治会長会の役員会

で意見を聞いた経緯があったが、これまでどおりとの大変ありがたい意見を頂戴している。今後も行政区長会、自治会長会で、意見集約をいただき、より望ましい方向で対応したいと考えている。



毎年の課題ではあるが

## 原爆展

### 平和事業を実施せよ

町長 継続的に啓発する



工藤 範子 議員

#### 問

本町では「非核平和都市宣言」を決議している。宣言内容を推進するための平和事業は実施しているのか。山形市や天童市では、実行委員会を立ち上げ原爆展、平和コンサートを開催している。また、平和活動に携わる個人や団体の育成支援は考えているのか。本町の戦死者は1千19人である。戦後73年を迎えて戦争体験者は年々減っている今こそ、身近にいる体験者から小中学生の多感な時に、聞くことも大切ではないか。

#### 町長

平和活動に関する個人や団体の育成・支援、直接的な平和学習の講座などは行っていないが、将来を担う児童・生徒などに対し、青少年健全育成に関わる事業のボランティア育成などを行っている。それらの事業への参加と交流を

通して、地域やふるさとを愛し、思いやる心を育てることが、平和につながっていくのではないかと考えている。また、戦争体験の継承や尊い平和については継続的に啓発して行く必要があると考えている。



風化させるな悲惨な体験 広島原爆ドーム

## 地域(区) 公民館

### コミュニティセンター化を導入せよ

町長 時代の変化を読み解き判断する



押切のり子 議員

#### 問

平成19年3月に指定管理者制度が制定され、10年が経過しているが、なかなか進まない状況にある。地域(区)公民館への導入がなぜ進まないのか。課題を調査し改訂に反映させているのか。

#### 町長

指定管理者制度の導入に係る先のガイドラインの改定については、剰余金の課題も含め見直しされていると理解している。

#### 問

人口減少が進むなか、集落ごとに事業の運営を行う

平成19年3月に指定管理者制度が制定され、10年が経過しているが、なかなか進まない状況にある。地域(区)公民館への導入がなぜ進まないのか。課題を調査し改訂に反映させているのか。

#### 町長

ことは大変困難な時代となっている。行政がやれることにも限度があることから、地域(区)公民館を中心に様々な事業を運営していくために、発想を転換し、コミュニティセンター化してはどうか。地域(区)公民館については地域づくりを前提とし

た指定管理者制度の導入を推進していくものであり、当該制度移行後に、地域の様々な課題整理とともに、コミュニティセンター化のメリット・デメリットを整理し、時代の変化を読み解きながら、判断しなければならぬと考えている。



待たれるコミュニティセンター化 第四公民館



## 高齢者支援

### 融雪対策せよ

町長

調査はしたが課題は多い



石川 武利 議員

問

超高齢化社会  
と言われる近年

特に高齢化率の高い地域では、冬期間の毎日の除雪が大きな負担となっている。この除雪の労力を少しでも減らすために先進地に学びながら、これらの地域に対して、屋根や敷地の融雪対策を講ずるべきと思うがどうか。具体的な融雪設備については、材料費、取り付け費用等が高額になることが予想される。これらに対する補助制度についてはどうか。

町長

これまでにも屋根に融雪設備を取り付けた場合の効果や、克雪対策が必要な地域での実際の取り組みを調べたこともあったが、イニシャルコストが高額になることに加えて、ランニングコストも発生するといった課題が考えられる。現在町では祝金制度による雪止め設置等に対する補助制度に加え、高齢者世帯に対する除雪支援並びに雪下ろし支援を制度化している状況となっている。



落雪、雪のかたまり危険 考えて

## 小学校改修・新築

### 判断基準は何か

教育長

一概に判断出来ない



小野 一晴 議員

問

小学校の老朽  
化対策として学

校施設の長寿命化を考えているようだが、計画を策定し調査した結果、長寿命化による改修か新築かの判断基準は定めているのか。

教育長

学校施設長寿  
命化計画におけ

る改修と新築の判断基準は、建物の構造のみにとらわれず、ライフラインの状態や学校個々の課題もあるため一概に判断は出来ないが、金額的な基準は、新築の6割程度が改修の目安である。

問

すべての教育  
施設の長寿命化

計画を策定することが今後の交付金の採択に影響すると聞いているが、平成32年度までに策定できるのか。

教育長

各施設の長寿  
命化計画の策定

は、予算の平準化も含め、平成32年度に向けて進めている。

問

今後、地域で  
理想的な教育環

境と望むべき学校について話し合いを始めるべきと思うがどうか。

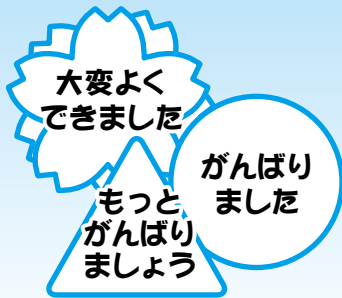
教育長

5つの小学校  
のあり様は、継

続したい考えはあるが長いスパンをもって、地域住民や子どもたちの意見も聞かなければと考えている。



長く使うことで愛着



# 3段階評価

**総務文教厚生  
常任委員会**

## ●婚活支援について(平成25年12月定例会報告)

- (1) 婚活支援補助金事業(本文に掲載)
- (2) SNS「わちゃっと!」コミュニティ「縁結びの部屋」
- (3) 庄内町商工会青年部カップリング事業



楽しい出会いがある



**現状と町へ  
新たな意見(抜粋)**  
現在は結婚相談員の

前回の提言  
結婚支援補助金事業を有効に活用し成果をあげていくためにも、総合的に取り組む専門担当者を配置すべきである。

配置や結婚支援員の登録もない状況となつているため、婚活支援事業による成果が見えてこない。県の「やまがた出会いサポートセンター」と連携するなど広域的に取り組むべきである。

**結婚支援  
専門担当と相談員の確保急げ**

## ●健康寿命延伸について(平成27年3月定例会報告)

- (1) 健康づくり・介護予防の知識を持ったサポーターの育成(本文に掲載)
- (2) 保健福祉課、社会体育、社会福祉協議会の連携
- (3) 「山形健康マイレージ」の推進
- (4) 食育の推進



マイペースで続けよう



**町の対応と  
新たな意見(抜粋)**  
保健福祉課では各講座をサポーター育成の機会と捉え、正しい知識を持った町民の裾野

前回の提言  
社会福祉協議会、保健福祉課それぞれに、専門的な知識をもったサポーターが必要とされていることから、積極的に育成すべきである。

を広げる機会として位置づけ、勉強会を行なっているがリーダーの育成にいたっていない。  
健康寿命延伸策を実施した前後の効果を検証するため、国の算定方法を参考に、分母を人口、分子を死亡数と要介護認定者数とした独自の方法で健康寿命を示すべきである。

**広がらないサポーター  
リーダー育成課題**

# 追跡 常任委員会の提言 町の対応

## 産業建設 常任委員会

- 空き家等の適正管理について(平成27年3月定例会報告)
  - (1) 現行条例等の問題点(本文に掲載)
  - (2) 国の事業を活用した対応の可能性
  - (3) 空き地の適正管理

空き家調査 4段階評価(平成28年9月現在)

空家等	戸数 【戸】	割合 【%】
Aランク (小規模修理再生利用可能)	18	4.7
Bランク (当面危険性なし)	92	24.0
Cランク (当面危険性ないが損傷激しい)	248	64.6
Dランク (飛散等危険性高い)	22	5.7
不明 (公道から確認不可)	4	1.0
合計	384	100

がんばりました

町は条例改正をせず  
特措法で対応できると  
しているが、在宅以外

### 町の対応(抜粋)

条例による応急措置・行政代執行・過料措置を明記し、財政上の措置、税制上の減免措置を検討すべきである。

### 前回の提言

の空き工場や空き店舗

など、実際に悪天候等による物的被害の報告もある。町では平成28年9月には空き家の実態調査を行い、翌年3月には庄内町空家等対策計画を策定した。平成30年度には解体助成費の総額を250万円に増額するなど一定の評価はできる。

空家対策大きく進む  
解体助成予算は増額

- 風車村一帯の振興について(平成27年9月定例会報告)
  - (1) 楯山公園の魅力づくりと整備(本文に掲載)
  - (2) 風車村の魅力づくりと整備
  - (3) 風車村周辺施設の整備と連携強化による振興策



お花見の経済効果は大きい

がんばりました

平成26年～平成29年は好天と開花時期に恵まれ、多くの来場者で

### 町の対応(抜粋)

楯山公園桜まつりは企画内容を工夫し誘客を図る一方、鶯駆除対策の効果を検証し被害減少を図るべきである。

### 前回の提言

賑わったが、駐車場の確保が喫緊の課題となった。平成30年度はシャトルバスの運行を予定し、開催期間はスタッフの負担等から2日間としている。イルミネーションの点灯や桜灯籠の設置など、夜桜見物を取り組まれている。鶯対策の忌避剤散布も継続している。

桜まつり大盛況  
駐車場整備が課題

# 小さな拠点

(立谷沢川流域活性化センター)

# 大きな支援

(地域おこし協力隊)

旧立谷沢保育園の建物を活用し、平成29年度から準備を進めてきた立谷沢川流域活性化センターが完成しました。今年秋の本格稼働を目指すため、活動続けている地域協力隊の、西尾真央さん(青森県出身)、伊計麻衣子さん(沖縄県出身)にインタビューしました。

## どのような活動なの

西尾さんは、タチラボレイスと、6次産業化の開発に取り組み、今は笹巻とヤマメの甘露煮の製品化を目指しています。

伊計さんは、製品化

される商品のパッケージのデザイン、地域や施設のPRをネットワーク等を通じて販売促進を担当します。

## 活動内容は

地元の農産物を使用し、6次産業化の協働作業所や移住体験住居の活用PRを行います。また、タチラボレイスの一員として地元へ溶け込み活動しています。今は準備段階で試行錯誤中です。



## 庄内町の感想は

おかずや山菜の差し入れなど、移住して間もないのに親しくしてもらっています。

また、地元の人から懇親会などに声を掛けてもらい、楽しく過ごしています。

自然も人も素晴らしいと思っています。

# 読者目線でアドバイス

庄内町議会広報モニター 菅原 和則

議会広報モニターを引き受けて1年が経過し、その都度、意見を伝えてきました。今回3月議会号(No.56)について、意見をまとめました。

## 良い点

文章の解りやすさ、レイアウトの見やすさ、写真とコメントの付け方、欄外を使用した解説、素人ですが良くできていると感心ながら読んでいます。

特に良かったのは、清川歴史公園整備事業に少数反対者の意見を大きく取り上げていることです。

## 改善点

6ページからの予算特別委員会の記事で、議員の質問に対して町長の回答が簡略化しているのではないか。バランスを考えるか文字数を増やせないのか。

## 総じて

年間を通じては議員の方が多方面にわたり

活躍され、活動されていることが紙面から伝わります。

議長は議会を代表し議会や議員の活動、抱える問題などを紹介するコラム欄があればと思います。

山形県町村議会広報コンクールで特選を受賞したことを励みとして、町民にもっと親しまれる議会広報紙づくりに頑張ってください。

広報モニター菅原さんからは、私たちが気づかない箇所を的確に指摘いただきました。特に、特別委員会の回答は、次回の課題とします。

新たなアイデアは、今後の広報委員会で検討していきたいと思えます。

# 人事

## ●教育長

菅原 正志氏(南野)



8月16日で任期が満了する菅原正志氏を引き続き任命。

## ●賛成全員で同意

## ●教育委員

齊藤 雅子氏(表町)

9月21日で任期が満了する池田智栄氏(幸町)に替わり、齊藤雅子氏を任命。

## ●賛成全員で同意

## ●教育委員とは...

教育委員は、教育行政における重要事項や基本方針を決定し、地方公共団体の長が議会の同意を得て任命します。任期は4年です。



4年間の  
活動に一言

# さよなら議会



議長

吉宮 茂

町民益につながる

議会運営目指して

庄内町議会は4年前富樫前議長のもと「町民益を目指し、議員活動が見える議会」をモットーに議会運営に取り組んで参りました。

これまでに総合計画の見直し、合併特例債の活用期間の延長があるとはいえ、町民各位の経済、福祉の向上を願う一方で、将来を見据えた財政計画の樹立が急務との認識であります。

平成26年7月の議員改選から4年間には、新共同調理場建設、農産物交流施設（風車市場）の道の駅、余目保育園の民営化などの事業が実施されました。

平成30年度からは本庁舎等整備事業が本格的に着手されます。いずれの事業も当初の目的、目標と大きく乖離することなく推移していると思っております。

これからも、議会はそれぞれの地域課題の解決や持続可能な住民福祉の向上のために、二元代表制を踏まえ、政策の提案、決定、執行、評価における論点や争点を明確にし、町民益につながる運営、活動を展開しなければなりませんと考えます。

4年間、ご指導いただいた町民の皆さんに御礼申し上げ挨拶とさせていただきます。



# 生声ひろば

笑顔で元気な  
あいさつ運動  
スタートアップイベント

## 今年も庄内総合高校が会場

恒例の「笑顔で元気なあいさつ運動」のスタートアップイベントが5月28日に行われました。今年は、庄内総合高校が会場となりました。



大人も元気なあいさつを

「おはようございます」と元気な声で応えてくれました。生徒会を中心にしてみなさんが開会イベントに参加し、生徒代表の奥泉亜美さん（3年生）が「笑顔で元気なあいさつ

今年で8年目を迎えたこのイベントは、庄内町商工会が提唱し、町、教育委員会などに協力を得て、全町が一体となって活動しています。

当日は商工会職員、町関係者や議会関係者が、登校してくる生徒たちを明るい笑顔で出迎えました。



いつでも元気

があふれる庄内町にしましょう」と宣言しました。

生徒にインタビューしたところ「来賓の方から、元気なあいさつ、返事は社会に出てからこそ役に立つ。あいさつ一つで相手に好印象を与えたり、仕事がスムーズに運ぶ事もあると聞き、身が引き締まる思いでした」と話していました。

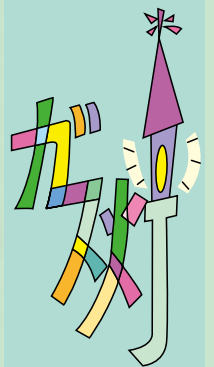
町全体に元気なあいさつが飛びかき、梅雨のどんよりした天気も明るくなるのではないのでしょうか。

### 4年間の活動を振り返って

本町の議会広報常任委員会の特徴は、新入議員が町の課題や議会の役割など、より早く理解してもらうため、議会広報の仕事を担当するのが伝統的になっています。

4年前、議会広報委員長に任命を受け、新しいメンバーで多くの町民の皆さんから読んでいただくために、分かりやすく親しめる議会広報紙の発行に心掛けてきました。

さらにレベルアップを目指し、東京で開催される議会広報担当者研修会の帰りに、プロの編集者や大手印刷会社のデザイン、写真担当の方から講義を受けるなど勉強してきました。



全国町村議会広報コンクールで全国入賞はできなかったが、昨年の3月議会号が山形県コンクールで特選を獲得したことは、広報委員全員の力の結集と、本町議会の活性化が高評価されたものと思っています。

7月議会広報紙からはメンバーも一新し、編集にあたります。これまで同様ご愛読お願ひします。

(五十嵐 啓一)

#### 発行人

議長 吉宮 茂

#### 議会広報常任委員会

委員長 五十嵐啓一

副委員長 齋藤 秀紀

委員 上野 幸美

委員 澁谷 勇悦

委員 鎌田 準一

委員 國分 浩実